

平成15年度 和歌山県文化賞

いり たに あきら
入 谷 明

住 所：和歌山県那賀郡岩出町

出 身 地：兵庫県

生 年：昭和3年

◎業績及び経歴

氏は、昭和34年に京都大学大学院農学研究科博士課程を修了後、1960年代後期から、大型家畜を対象とした体外受精系の確立に向けて、受精生理学的な立場から研究を開始された。氏はまず、大型家畜の子宮や卵管内の生理学的環境と、そこにおける精子の受精能獲得機構の解明に着手し、得られた知見を基礎として中・大型家畜における体外受精系を他に先駆けて確立することに成功した。それらを基礎として中・大型家畜の増殖に大きく貢献し、国内外で極めて高い評価を受け、平成11年には日本学士院賞を受賞、平成12年日本学士院会員となる。

本県においては、平成5年から那賀郡打田町の近畿大学生物工学部教授として、後進の指導にあたりつつ、発生・遺伝子工学技術の研究を続けられる。

平成13年には、和歌山県内においても、県畜産試験場との共同研究により、体細胞クローン牛を誕生させている。この技術は今後、県特産和牛「熊野牛」や乳用牛の資質向上や安定化に役立つと期待されている。

平成14年には、世界で初めて植物(ホウレン草)の遺伝子を動物(ブタ)に組み込むことに成功し、成人病になりにくい豚肉の生産に取り組むなど先駆的な生命科学研究で注目を集めている。

また最近では、シベリアの永久凍土で発掘したマンモスの肉片をもとにクローン技術を利用して復元するという研究でも、世界的に注目されている。

■現在

近畿大学理事・生物理工学部教授
近畿大学先端技術総合研究所所長
京都大学名誉教授
日本学士院会員
国際家畜繁殖学会常任理事
厚生労働省クローン検討委員会委員
文部科学省21世紀COEプログラム
「食資源動物分子工学研究拠点」拠点リーダー

■主な表彰歴

昭和64年 京都新聞文化賞
平成7年 日本農学賞
紫綬褒章
世界不妊学会基礎生物学賞
平成10年 日本農業研究所賞
平成11年 京都府文化賞
日本学士院賞